



里山の森づくりの担い手育成事業2024

南丹の森を知る

取り組みと成果のまとめ
2025年3月

特定非営利活動法人つむぎ

はじめに

2024年11月から1月にかけて、計3回、「南丹の森を知る」として、生物多様性、林業、学びと遊びの場としての森林の利活用の3つのテーマを切り口とした講座を開催しました。この講座は、持続可能な里山環境維持のための活動の一環として、特に、里山の森づくりの担い手育成を目的としたものです。

森林や里山資源の需要の減少に伴い、山に入って作業をする人や、日々の暮らしでの関わりも大幅に減り、地域住民も含めて、山や森林への関心が低くなったと言われています。また、高齢化と後継者不足に伴い、山を健全に保っていた技術や、地域の山の知識、利活用の知恵も失われつつあります。

背景

2006年に4町（美山町、日吉町、園部町、八木町）が合併してできた京都府南丹市は、616 km²の広大な地域に2万9,426人が住んでいます（2025年度3月現在）。豊かな森林と、丁寧に維持されてきた農村と里山環境が残る地域も多くあり、京都市内へのアクセスもよい街のエリアの利便性もあります。しかし、日本中の地方都市が直面する少子高齢化や人口流出は南丹市でも顕著にみられ、合併以降、人口が6千人以上減少し、また65歳以上の高齢化率は市全体では36.4%、一部地域では40%を超えるところもあります。（出典：南丹市農業の概要：令和6年度南丹市農業推進課）

この高齢化と人口減少の影響は、農業や林業の担い手の急速な減少とも直結しています。それは、里山環境を維持する担い手が減少しているということでもあり、農村の集落機能全般の低下と共に里山環境の維持という点でも大きな課題となっています。

南丹市の森林は、5万4千haあり、総面積の約88%を占めています。（出典：以下の※参照）このうちの人工林の多くが間伐期にあり、充実した森林資源がある一方、必要な間伐がなされていないエリアも多くあります。森林所有者の高齢化や地域外への転居などにより境界が不明確なエリアが増えていることや、間伐作業が入りにくい地形、間伐をしても経済的に成り立たない条件の森林など様々な課題が理由として挙げられ、手が入らずに荒れていく森林も広がっている状況があります。

※南丹市の森林や林業の現状、今後の取り組み方針等は「南丹市森林・林業・木材産業振興ビジョン2024-2033」にまとめられています。

人の手が丁寧に入っていたからこそ維持されてきた豊かな里山の環境は、その維持が難しくなった今、特に中山間地に住む私たちの暮らしに様々な影響を及ぼしています。自然災害時の脆弱さや農業にも影響する獣害など、重大な課題であるにもかかわらず、解決に向けた取り組みが十分とは言えない現状があります。

この活動では、行政や林業事業者などだけではなく、課題意識を持つ人や地域住民も含め、今後どのように関わっていくことができるのか、森林を中心とした豊かな里山環境の維持に必要な知識や技術を学び、協議を重ねながらその道を模索していきたいと思います。



2023年2月、当団体と地域有志の実行委員会が南丹市で開催した「農×地域シンポジウム未来を耕す～これからの農と地域を考える～」では、「森林と農村：里山を守るか?!」という分科会を設け、地元の森林組合職員や猟友会の猟師、地域の山林所有者や地域住民が話し合う場を持ちました。40名ほどの参加者からは大雨や雪の後の山崩れや、獣害による農作物の被害がひどくなっている状況などへの不安、また、直接的な影響やがあるにもかかわらず、どうしたらいいかわからない、獣害対策が追い付いていない、山に入る機会もなく状況がわからない、などの声が共有されました。

この分科会ではまた、食を通してつながることのできる農業の課題に比べ、直接的に関わることが少ない森林の課題に対して関心を持ってもらうこと自体の難しさについても話があり、どのように関心を高め、担い手の育成につなげていくのかがまず取り組むべき大きな課題の1つとして、また地域でもできることの1つとして認識されました。

「南丹の森を知る」は、これに取り組む入り口として、先進的な取り組み事例を学ぶ場を設け、新たに関心を持ってもらう人を掘り起こし、またすでに森林の課題に取り組んでいる人も一緒に、個人の課題意識や地域の状況を共有しながら今後の取り組みの模索を協議する場を目指しました。

講座の構成と各回の概要

「南丹の森を知る」は、以下の3回の講座で構成しました。すでに森林の活動に関わっている人、地域で活動をしている人などには、直接お声がけをするなどして、各回ごとに参加者をつりましたが、連続してご参加される方も多くおられました。

第1回 11月4日（月・祝）

「獣害から森を再生する自然配植とその技術」

第2回 11月30日（日）

「林業の施業地視察@日吉町と市民による取り組み事例@びわ湖源流に学ぶ」

第3回 1月19日（日）

「“痕跡探し”で森の動物を知る」

各回ともにその分野を専門とするスタッフがプログラムの構成及びファシリテーション等を担当

し、専門の講師の方にお越しいただき学びをご提供いただきました。各講座の開催場所は、次年度の技術習得や実践的な取り組みにつながる場所や地域関係者との関係性構築も考慮にいれ、南丹市内3か所を選定しました。

以下に各回の詳細と振り返りをまとめます。



第1回 「獣害から森を再生する自然配植とその技術」

参加者
15名

日時 11月4日（月・祝）

会場 天引村倶楽部

（南丹市園部町天引）

講師 自然配植技術協会会長

高田研一さん

ファシリテーター

特定非営利活動法人テダス

田畑昇悟さん

対象 獣害に困っている地域住民、森の再生に関心のある方、地域や個人所有の森の再生を実践したい方、など

プログラム担当

Wildlife forester 榎本 拓司

当日資料（講師提供）

「京の森づくりに用いられている

『自然配植』の概要2024」

（特非）森林再生支援センター

プログラム内容

午前：講義／自然配植の概要、山の見方、森の育て方、地域性苗木を地域で生産する重要性、など

午後：山の視察／森林環境観察（木の高さ、日光の入射量、地質の関係、シカの影響度観察、など）
ディスカッション／地域で抱える課題の共有、自然配植や地域性苗木育成を地域で実施すること、森づくりへの希望、など

振り返りとまとめ

講座を通して、森づくりをするための技術的な視点と、森をどのように診断するかを学んだ。また、実際に森に入り、個々で歩きながら、また話を聞きながら全員で観察する時間を持ち、地形、地質、環境、光量の間接関係を読むことや、多様な樹種から木を選定する適地適木の重要性を学んだ。また、地域の母樹から種採りをして苗木へ育てる「地域性苗木」の必要性については大きな学びを得ることができた。

参加者の多くの方が地域性苗木をつくる取り組みへの興味を強くもったようだった。地域遺伝子を持つ、自然林の苗木を確保しておく事は、シカの影響の大きな南丹市において、地域の森の未来を守る上で大変重要になると考えられる。

地域性苗木を生産する体制が南丹の各地域で構築され、自然配植技術に基づいた森づくりが広がれば、木材生産だけに留まらない、多様な価値化ができる森づくりへも発展、展開できる可能性が拓けるのではないだろうかと感じた。（文：榎本拓司）



第2回 「林業の施業地視察@日吉町と市民による取り組み 事例@びわ湖源流に学ぶ」

参加者
14名

日時 11月30日（土）

会場 日吉町森林組合施業地
（南丹市日吉町殿田）

日吉産業振興会館

講師 日吉町森林組合 堀田暢さん
朽木Green KONG 廣清乙葉さん

ファシリテーター/プログラム担当

自伐林業家 林益郎

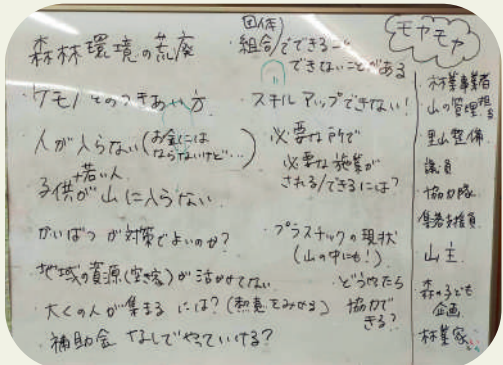
対象 林業に関心のある方、林業従事者、山主、地域の森/山の整備をしたい方、など

当日資料

- ①「日吉町の森林・林業の現況」
（日吉町森林組合提供）
- ②「高島市で動きだしたこと:移住、林業との出会い、そして今」
（朽木Green KONG提供）

日吉町森林組合
施業地視察地点
→

視察の様子↓



プログラム内容

午前：日吉町森林組合施業地の視察／針葉樹人工林での間伐施業と搬出作業の説明、広葉樹間伐地視察など

事例紹介①／森林組合の取り組み、提案型集約化施業の仕組み、広葉樹転換や地元の学校との関わりなどの展望について

午後：事例紹介②／高島地域での小規模林業の取り組み事例の詳細、林業関係者との交流や協働、地域への情報発信と関係性の構築、行政との関わりなど

ディスカッション／目指す山の理想像の共有、森林資源の利活用を基本とした里山整備について、ナリワイにつなげる関わり方、など

振り返りとまとめ

施業地視察では、針葉樹人工林での間伐木材の搬出や、大型重機での作業効率を考慮した整備について説明を受けた。広葉樹区画の視察では大径木化した山での間伐施業の難しさや鹿の食害による新芽更新への影響についても見る事ができた。

講義では、材価が下がっている中で提案型集約化施業を実施し、作業道を入れ効率よく低コストで間伐材を搬出する詳細を聞いた。今後のビジョンとして人工林を広葉樹林へ転換し、多様な植生にしていく必要性についてもお話があった。

高島地域での小規模林業の取り組み事例として、地元森林組合や林業事業者、行政との関わりやこれまでの流れなど、地域性を踏まえた活動はとても参考になった。対立ではなく協力できる関係性を構築することで進んできていることがよく分かった。

ディスカッションでは、今後50年100年先のことを考えて後世へ“どんな山”を残していくのかということも考え、良い議論となった。（文：林益郎）



第3回 “痕跡探し”で森の動物を知る

日時 1月19日（土）

会場 ハピロー！の森京都
（南丹市日吉町天若）

講師 南丹Wildlife tours
榎本拓司

ファシリテーター/プログラム担当
前田敦子

対象 森を活用した環境学習や遊び場づくりに関心のある方、教育現場にかかわる方、など

当日資料

「"痕跡さがし"で森の動物を知る」

プログラム内容

午前：講義／講師作成の「森の痕跡探しRPG」を使い、森の中で見つけられる動物の痕跡とその生態、見分け方などについて説明

午後：痕跡探し実践／午前の学びを基に参加者が痕跡を探しながら歩き、講師が詳細を説明。
ディスカッション／1日で得た学びやもっと知りたいことの共有、「痕跡探し」をツールとして活用すること、「森林のとらえ方の違い」などについて

振り返りとまとめ

ファシリテーターから：「こんせき博士タクさん」のお話は、大人から子どもまで楽しんで学べる内容だった。スクリーンに映し出された森のイラストから痕跡を探し、どのような動物が身近に暮らしており、普段その姿は見えなくても、目に見えるところに様々な痕跡を残していることを学ぶことができた。その後森に入って実際の痕跡を見ることでさらに実感を持つことができた。楽しみながらも、今、森はシカによる被害が大きく今後の植物の成長に大きな影響を及ぼしていることを学ぶことができたと思う。

（文：前田敦子）

成果のまとめ

今年度の活動として目指したことの1つは、南丹市において、多様な立場で山や森林に関わる人が集い、率直な意見交換を通して、顔の見える関係性を築くということです。地域が抱える課題の多くが、その解決には分野を超えた連携や協働が必要になりますが、普段の暮らしや仕事の中では協働の土台となる関係性づくりをする機会をなかなか持つことができません。3回の講座を通して延べ39名の「森林」という共通の場を持つ関係者が集まり、先進的な取り組み事例を学びながら、お



講師から：森を歩き、実際に見つかった痕跡から、森に生息する野生動物を知る事を体験してもらった。また、シカによる森林への影響力と森の変化についての観察を通して、南丹の森の現状を知ってもらい、今後を考えるきっかけになったのと思う。痕跡さがしが予想以上に盛り上がり、参加者から「小学校や地域の子どもたちにもぜひ実施して欲しい」「科学的根拠に基づいた知識がフィールドワークで紐づいて2度楽しめた」との感想をいただけて嬉しく思う。林業視点での森づくりとは違う視点で、地域の森を考え、楽しく活用する事例になればいいと感じた。今後、この体験を通して、地域住民が森に入るための場づくり、子どもたちが森を知り楽しむ価値の提供、木材資源だけでない価値の創造など、南丹地域の森に関わる課題解決の糸口になれば幸いだ。（文：榎本拓司）



互いの理解を深める時間を持てたことは、次に掲載するアンケートにもあるように、多くの参加者にとっても貴重な時間となったようです。

また、次年度の活動にむけて、地域が抱える森林の課題について共通認識をもち、同時に個々が抱えるモヤモヤも共有しながら、今後どのような取り組みが必要か、また何をしたいかについて3回共に熱量の高いディスカッションができたことは、今後につながる一歩として、大きな成果だったといえます。

参加者アンケート集計

以下に、講座の各回で参加者の皆様に記入いただいたアンケートをまとめます。

第1回「獣害から森を再生する自然配植とその技術」

Q. ご参加のきっかけは何ですか？

(複数回答可)

回答
10名

- 所有している山林（ご自身または集落などで）が
獣害等で荒れており、どうにかしたい…2
森／山林の再生の取り組みに関わっている…1
森／山林の再生の取り組みを始めたい…3
今後、森／山林の整備等を始めるための参考にしたい…5
その他…4
- ・ ほぼそ地域から山林についても相談を受けることが増えてきたので
 - ・ テーマに興味があって
 - ・ つむぎのイベントなら充実していると思ったから
 - ・ 林業に携わっている



Q. 上記のご回答に関して、困っていることや課題だと思えることはなんですか。

- ・ 私自身が山林についての基礎的知識も新しい取り組みも知らないため、方向性がわからないこと
- ・ 手入れされないまま放置される山林
- ・ 災害について
- ・ 共有林の荒廃を担当役員として何とかしたい
- ・ 広葉樹への関心も高まってほしい
- ・ 山が崩れないかという心配。心配する必要があるかも含め。
- ・ 作業員が少ない
- ・ 地域の巻き込み方が手探りで見えていない
- ・ 人工林の杉、倒木
- ・ 人工林を切った後にはどのような森林を育てるのかということ
- ・ デスクワークが主体なので、自分の知識とスキル向上のためにもっと様々なフィールドワークをしたい

Q. 講座の全体をとおして、内容はご期待に沿っていましたか。

- A. 期待以上だった…7
- B. 期待通りだった…2
- C. 期待と少しちがった…0
- D. 期待と全く違った…1



上記の回答の理由をお聞かせください。

- ・ 講師の方の圧倒的な知識量と経験、そして情熱も想像以上でした。
- ・ 知らないことが多かったです
- ・ 知識不足でわからなかった
- ・ 良い意味で全く違いました。明確な答えを示される勉強会ではなかったですが考えるきっかけになりました。
- ・ 情報量が多かった。
- ・ さまざまな目線、つながりで山との向き合い方が変わってくるのだなと思えた。適樹適所、設計して山や森と付き合う必要がある。
- ・ 苗木など今まで考えていなかったことのヒントを得た。
- ・ 生態系全体に関する知識を聞いた。
- ・ 講師の高田先生は深い見識をお持ちなうえに、話し方そのものもとても面白くてあっという間の時間でした。

Q. 座学の内容について、わかりやすさはいかがでしたか。

- A. よくわかった…4
- B. まあまあ…3
- C. どちらともいえない…1
- D. すこしわかりにくかった…0
- E. 難しかった…1

もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・ たまに専門用語が漢字変換できなかったです。
- ・ 情報量が多かったので自分で調べます。
- ・ どういった場所にどういった樹種が適しているか知りたい。
- ・ 苗木の育て方（森の中での種の見つけ方など）
- ・ 自然配植についてもっと詳しくお話を聞きたかったです。

Q. 視察の内容について、わかりやすさはいかがでしたか。

- A. よくわかった…4
- B. まあまあ…3
- C. どちらともいえない…3
- D. すこしわかりにくかった…0
- E. 難しかった…0

もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・土質の見分け方、根の張り方の方向
- ・高田先生がご指導した森を見てみたいです。パッチディフェンスを実際に見てみたかった。
- ・苗のことは鹿取さんのイベントで学びたいです。獣害対策は仲間に広めていきたいです。
- ・森林施業の考え方、判断基準について

第2回 林業の施業地視察@日吉町と市民による取り組み事例@びわ湖源流に学ぶ

回答
16名

Q. ご参加のきっかけは何ですか？

- 林業に関心がある…7 （複数回答可）
- 林業に携わっている…9
- 山を所有している…7
- 集落等で山を所有している…3
- その他…2
 - ・ 山を借りている
 - ・ 仕事柄また個人的な関心で山の有効利用、収益化に興味があるため



Q. 上記のご回答に関して、困っていることや課題だと思ふことはなんですか。

- ・ 利用したい山の所有者がわからない、また山の境界がわからない。その上、利用するための同意の取り方がわからない
- ・ 切り捨てた木材が放置されていて痛々しい
- ・ シカ、イノシシに困る
- ・ 自伐型林業を知らない人が多いので認知を高めたい
- ・ 小さくよい感じて施業してくれる人たちとの接点が少ない。どう頼めばよいのかわからない。お金の問題。
- ・ 課題は見えるが技術など何もかも足りないことが問題。
- ・ 資金調達
- ・ 人材不足
- ・ 担い手がない。山に入る人を増やす。補助金なしで生活していけるシステム（誰もが実践できる）を作る。
- ・ 山に人が入らないこと、木が高く売れないこと、水害や獣害で山が荒れること
- ・ 自分が亡くなったとき、子どもが困ると思う。
- ・ 所有者、境界線の明確化

Q. 講座の全体をとおして、内容はご期待に沿っていましたか。

- A. 期待以上だった…9
- B. 期待通りだった…7
- C. 期待と少し違った…0
- D. 期待と全く違った…0

上記の回答の理由をお聞かせください。

- ・ 現場を見せていただいた。作業道のしっかりした様子を見て日吉町森林組合さんの丁寧な仕事ぶりが分かった。また高島市の素早い動き（当市に比べ）にもやる気になればできると勇気づけられた。
- ・ 山に関わる人たちと交流できた。
- ・ 皆さんの関心度
- ・ 率直な意見交換ができました。
- ・ わかりやすい話で知識を増やすことができたため。
- ・ みんなからいろいろな意見が出てよかった。
- ・ ディスカッションでいろんな人の話を聞くことができた。



- ・ 講師の話を聞くだけでなく森林組合の施業地を歩かせてもらったり、知らない人とのトークセッションなどでみんなが何を考えているのか理解が進んだ
- ・ 日吉の取り組みから山主さんにプラスが出ていて、まわっていることが知れた。道と山がきれいだった。山のこと、森のことを知れた。
- ・ 森林組合の方と素人から自伐型を始めた方のお話を両方うかがえたので。
- ・ 福井では実現不可能な金額をお戻しできていることに驚き。
- ・ 組合が管理している山を見れてよかった。予想以上にきれいに手入れされている印象。
- ・ 日吉町森林組合さんの施業に対する考え方を現場でお聞きできたのはとても貴重な機会でした。

Q. 視察の内容について、どんな学びがありましたか。もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・ 自伐型林業では作業道づくりの大切さが強調されているが、この現場の作業道のしっかりしたづくりを見て、自伐型以外でも作業道が大切だとわかりました。
- ・ 日吉町森林組合がどんな施業をされているのかが分かった
- ・ 山に興味がある方がたくさんいてびっくりした
- ・ 今後の里山対策
- ・ 選木の仕方
- ・ 萌芽更新がどうやったら進められるか知りたい
- ・ 下層植生（草本）は森林整備を適正にすることで育成される→本体はどうしたらよいのか？どのようにして針広混合林に導くのか？
- ・ 森林組合の方がどのような施業をされているかを教えていただけて興味深かった。
- ・ 路網の作り方や整備の仕方
- ・ 自伐型林業を実践されている方の話がきけて、目的や想い、組合の施業との共通点、異なる点のどちらも知ることができた。
- ・ 自分たちが持つ山と日吉町森林組合さんの仕組みで手入れされた山との相違点を知ることができた。山の管理のポイント（要点）を学べた。
- ・ 丁寧な説明をいただきありがとうございました。
- ・ 作業道の開設方法について（かまぼこ型の形状で、雨水を分散する）

Q. 事例発表の内容について、どんな学びがありましたか。もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・ 朽木でのパワフルな活動、チャレンジ精神がとても魅力的でした。行ってみたいくなりました。
- ・ 自伐型林業をどうやって始めたらよいか分かった
- ・ 今後具体的にできることを考えていきたい（地域、市民として）
- ・ 行政への積極的なアプローチ
- ・ 山に獣が本当に減るのか？来年以降、モデル林がどうなっているのか知りたい。
- ・ 皆さんの思いはほぼ一致していると感じました。お金や実際どのようにやっていくかということが動けばよい方向に向かうと感じれた
- ・ 行政とのかかわり方
- ・ いろんな事例や考え方があり、対立するものではないという考え方に共感しています。
- ・ 活動する山をどのように見つけているか、それにまつわる苦労などについて聞いてみたい。
- ・ 意見のすり合わせをメンバー間でできたこと
- ・ いろんな内容を聞き、参考になりました。

第3回 ” 痕跡探し ” で森の動物を知る

回答
10名

Q. ご参加のきっかけは何ですか？
(複数回答可)

- 環境教育に携わっている…0
- 環境保護活動に携わっている…1
- 森林環境に関心がある…6
- 野生動物に関心がある…7

その他…3

- ・ 子どもたちと森で遊ぶ活動をしている。
- ・ 動物の痕跡をどうやって探すのかを知りたくて参加しました。
- ・ 主なきっかけは私自身の好奇心。それに加え、仕事柄、色んな集落で、放置林の問題をちょこちょこ耳にする様になった為。

Q. 上記のご回答に関して、困っていることや課題だと思うことはなんですか。

- ・ 人工林の放置で山が荒れていること。
- ・ 森林と人間・里山の関係をどう良くしていくか。地域住民の山、森への興味・関心をどう芽生えさせるか。
- ・ わからないことが多い。
- ・ 子どもたちが山でいっぱい遊んでほしい。山や川のことにもっと関心をもってもらえるとうれしいな。
- ・ 戦後に植林された木が利用されていない。
- ・ 森が荒れている、鳥が少ない。
- ・ 山や森が活用できていない。
- ・ シカやサルが増え過ぎて、その害が許容範囲を超えている。これは集落内の里地だけでは対応出来なくて、森林をどうするかに大きくかかっている様に思います。
- ・ 日々の生活におわれ、山に関わる時間がとれない。山の管理で大きな木を切るとか、素人では怖い。
- ・ 各動物についての知識が必要と思いました。



Q. 講座全体をとおして、内容はご期待に沿っていましたか。

- A. 期待以上だった…7
- B. 期待通りだった…3
- C. 期待と少しちがった…0
- D. 期待と全く違った…0

上記の回答の理由をお聞かせください。

- ・実際に山に入って見られたところが良かった。
- ・知らなかった事を新たに学べたり再確認できた事もあった。わかりやすいスライドで子供向けにやってもらいたいと思いました。
- ・とても高い期待をもって、今日は参加しました。期待通りのものでした。(講師が山のシャーロック・ホームズみたいだった！)
- ・知らなかった事を興味深く学べた。
- ・実際に体験ができたこと。
- ・レクチャーで使われたスライドがわかりやすく、おもしろかった。
- ・シミュレーションのロールプレイングゲームの完成度、科学的な根拠のレベルが高く、驚きました。
- ・痕跡以外の森の遊び方も教えていただいて楽しかったです。
- ・RPGが充実していて楽しかった。

Q. 痕跡探しのフィールドワークについて、どんな学びがありましたか。もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・散策するだけで、痕跡を探してしまうのが楽しかった。
- ・講座で教えていただいた事を、すぐ実際に確認しに行けたのは良かった。もう少し野生動物が生きている山でやりたい。
- ・講師の方のやさしい話し方がとても好きです。今日、とてもたのしかったです。
- ・山を歩く時の楽しみが増えてうれしいです。
- ・糞の違いをよく知ることができました。
- ・その森にどんな生き物が生息しているかが分かることによって、その森全体が今どのような状態にあるのかが見えてくる気がする。それに対してどのような対策をとればいいのか、今後学びたい。
- ・ただの整備した山に過ぎないと思われた山が、説明や遊び方を聞きながらだと、すごく楽しく興味深いもので、それこそツアーとして商品化出来る様に感じました。
- ・シカは本当にリョウブが好きなんだな～と思いました。痕跡も楽しかったですが、タカノツメの紙ひこうきや、ヒノキのレゴ、子供とぜひやってみようと思います。
- ・ひとりで歩いていても探せないけど、仲間と歩くと楽しいし、自分では気づけないことも気づける。登山道が整備されているところでは発見できることも限られるのかなと思いました。珍しいものは見つからない？

Q. 講義に関して、どんな学びがありましたか。

もっと知りたかったことなどがあれば教えてください。

- ・説明してもらえて、普段見ていたものが痕跡だったことを知れた。
- ・知識として、こういった痕跡があるか知れて良かった。シカ、イノシシ以外の動物(ニホンリス、ムササビ、ノウサギ)の痕跡を見つけたいと思った。
- ・いつもぼんやり見ている中にたくさんのヒントがちらばっているんだな！と思いました。もっと色々みるのが楽しくなりそうです。
- ・動物の痕跡から、今、山の中でなにが起きているのか、動物たちのくらしはどんなものなのか、想像がふくらみました。
- ・森をあるく時の目のつけどころ、見分け方が少しわかった気がする。実際に森に入って経験をつみたいと思った。
- ・今日のお話を聞いた限りでは、今、一番、森の生物多様性を失わせている要因はシカの食害の様に思われました。正直、シカの数については、抑制が必要だと思うのですがいかがでしょうか？
また、シカの増えた要因は冬の雪が減った事もあるのではと思いますが、いかがでしょうか？
- ・ムササビの痕跡初めて聞いた。シカの樹皮はぎとクマはぎの違い等も聞けて良かった。
- ・見分け方のポイントが色々あるんだなと感心しました。



3回共通の質問

Q. この企画についてどこでお知りになりましたか。

- チラシ…5
- つむぎホームページ…2
- SNS上の情報 (FBなど) …5

- 京都新聞記事 …0
- 知人からの紹介…27
- その他…0



Q. 森/山林に関わることで、学びたい知識、習得したいスキルや手法などがあれば教えてください。

1回目回答

- ・木材以外の稼ぎ方も興味があります。レンタルフォレストやマウンテンバイクのツーリング等の勉強会もあれば参加してみたいです。
- ・地域性苗づくり（3名）
- ・今日のことをとっかかりにしたいです。
- ・里山の利用方法に関するディスカッション
- ・地形、地質の読み方、樹種事の特徴

2回目回答

- ・木材を販売する以外の収益化の事例
- ・道づくり
- ・近自然的な森林づくり→可能な限り手を加えずに、より自然に近い森林を作るか。そして価値ある“美しい”森を目指す！
- ・道づくり、チェーンソーでの伐倒スキル、簡易架線の搬出
- ・薪づくり、歩けるほどの小さい道づくり
- ・機械を安全に早く使えるようになりたい。道をどのように付けたらよいのかの見極め。伐倒のスキル。
- ・路網の作り方
- ・すべて学びです。
- ・山林を通じた移住者の促進について

3回目回答

- ・木や草の名前など、葉を使った料理やお菓子、遊びなどをもっと知りたいと思った。
- ・樹種による特徴(どういう所に生えやすいか、根の広がり具合とか)を学びたい。シカの減らし方(無理のない方法)。山の引き継ぎ、山への意識の改革、地の人と移住組との共有が必要。今回のイベントを地元住民向けに行う→入れる山を増やす。
- ・動物や植物のことについてもっとくわしくなりたいです。
- ・地域性苗木のこと。
- ・木の名前を覚えたい。これから目指す方向が自分には見えないがどうしたら良いか考え続けたい。
- ・木の種類で違いが少し知ることが出来た。
- ・森の再生、生態系の回復。
- ・私は林業そのものよりも、山林を活用した稼ぎ方に興味があります。レンタルフォレストや、マウンテンバイク道作りをして、生業とされている方のお話を聞いてみたいです。
- ・様々な樹種の名前や特徴、活用方法について知りたい。
- ・獣たちとの共生の仕方。

終わりに

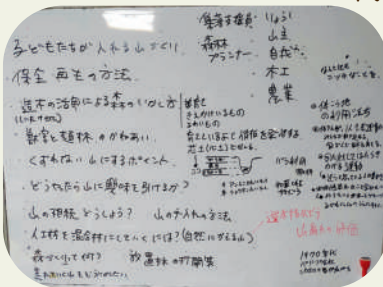
里山の森づくりの担い手育成事業の初年度を無事に終了することができました。この取り組みを始めるきっかけとなったのは、冒頭にも書いた農×地域シンポジウムでの話し合いの場で、どんどんと森が荒れ、目に見える被害が出ているにもかかわらず、人々の関心が低く、また課題として感じている人もどうすればよいのかわからない、という声が多く出たことでした。

美しい里山の風景が今なお健在な南丹市ですが、日々の暮らしの中では、すぐ近くに山があり、田畑が広がっていても、非農家であったり、地域の山について知らない場合、気軽には扱えない、入っていけないもどかしさがありました。

しかし、関心が低いといわれていても、シンポジウムや今回の講座に集まった人々はそれぞれに何かしようと模索をし、動き出しています。多様な人が入っていくことで、今現在の課題とはまた別の課題がでてくることもあるとは思いつつも、地域の人たちも一緒に「なんとかしたい」「できそうだ」と思える“道”を作っていけたらと思います。

最後になりましたが、講座での学びを提供してくださった講師の皆様、率直な意見や想いを共有してくださった参加者の皆様、また、講座の受け入れをしてくださった地域の皆様、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

特定非営利活動法人つむぎ
代表理事 ドワイヤーはづき



田畑や山林の担い手が減っている…集落や里山の維持が難しくなるかも…
 どうやったらもっと多くの人が関心をもって、“農”や“森”にかかわるようになる？
 どうやって“担い手”につなげていく？

南丹の森を知る

獣害や自然災害の影響など、日々の暮らしにも密接につながっている森の課題。
 「南丹の森を知る」は、生物多様性、林業、学びや遊びの場としての森林の利活用、の3テーマを切り口に、
 森の現状や課題を共有し、今後どのような取り組みやかかわりづくりができるのかを模索する場です。

第1回 11月4日(月・祝)

「獣害から森を再生する自然配植とその技術」

人里で田畑や庭を荒らす動物たちの元の棲み処である森をどうやってもう一度豊かな森にし、崩れてしまったバランスを作り直すのか。自然配植は「自然のもつ豊かで多様な力をうまく生かしながら緑を創造し保全する技術」と言われています。南丹の森を歩き、その考え方と技術を学びます。

講師 自然配植技術協会会長 高田研一さん

ファシリテーター 特定非営利活動法人テダス 田畑昇悟さん

9時半集合@「天引村倶楽部」

(住所:園部町天引下北 3-1)

講義+山林視察+ディスカッション

15時頃 終了予定

対象:獣害に困っている地域住民、森の再生に関心のある方、地域や個人所有の森の再生を実践したい方、など
 20名程度

第2回 11月30日(土)

「林業の施業地視察@日吉町と

市民による取り組み事例@びわ湖源流に学ぶ」

利活用の激減による森林の荒廃や自然災害でのさまざまな森林被害など多くの課題がある中で、“林業”が担う役割とその担い手育成について、多様な林業の事例から考えます。

講師 日吉町森林組合 堀田暢さん&朽木 GreenKONG 廣清乙葉さん

ファシリテーター 自伐型林業家 林益郎

9時半集合@「日吉町森林組合」

(住所:日吉町殿田尾崎 8-1)

日吉町森林組合施業地視察

+事例紹介+ディスカッション

16時頃 終了予定

対象:林業に関心のある方、林業従事者、山主、地域の森/山の整備をしたい方、など 15名程度

第3回 1月19日(日)

「“痕跡探し”で森の動物を知る」

南丹の森にはどんな動物がいて、どんな生活をしているのでしょうか?“フィールドサイン”と呼ばれる動物の痕跡を探しながら、森の生き物たちとつながる学びや体験の場づくりを実際に体験し、実践につなげます。

講師 南丹 Wildlife tours 榎本拓司

ファシリテーター 特定非営利活動法人つむぎ 前田敦子

10時集合@「ハピロー!の森京都」事務所前

(住所:南丹市日吉町天若上ノ所 25)

講義+体験+ディスカッション

15時頃 終了予定

対象:森を活用した環境学習や遊び場づくりに関心のある方、教育現場にかかわる方、など 15名程度

<3回共通事項> 参加費:1,000円(いずれも資料、保険代含む)

申し込み:名前、電話番号、参加希望の回を tsumugi.nantan@gmail.com にメール

持ち物:昼食、飲み物、筆記用具 服装:森で活動できる服装、歩きなれた靴

主催:特定非営利活動法人つむぎ

TSUMUGI
つむぎ

問い合わせ:担当 ドワイヤー tsumugi.nantan@gmail.com

この事業の実施には独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。





この事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、
独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。



お問合せ：

特定非営利活動法人つむぎ

E-mail : tsumugi.nantan@gmail.com

HP : <https://tsumugi-kyoto.net/>

TSUMUGI
つむぎ

